

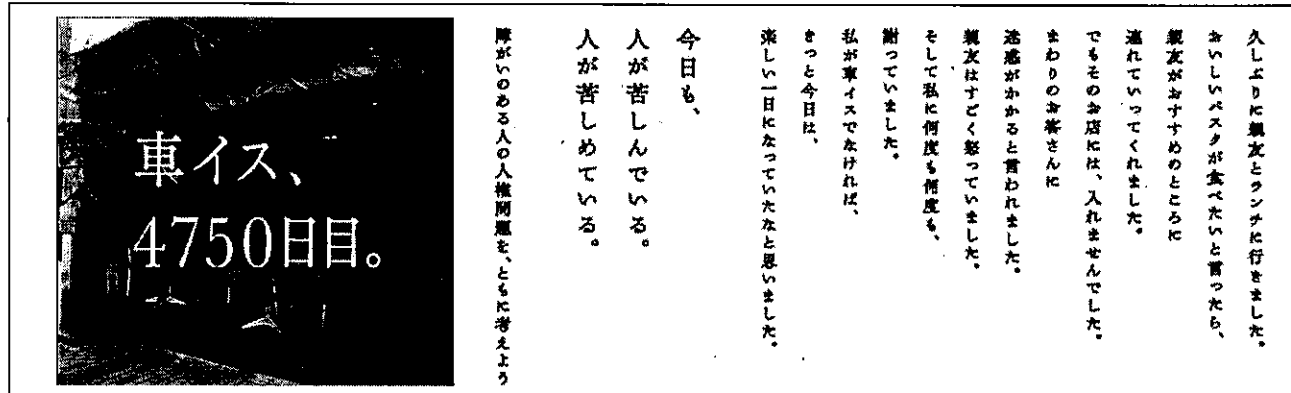
夢・努力・感動 ～生徒とともに～

令和2年7月31日(金)
人権・同和教育部より
2年 生徒・保護者版

みなさん、こんにちは。人権・同和教育部です。新型コロナウイルスの流行で、例年とは違う生活を送り、何かとストレスがたまる日々が続いているのではないのでしょうか。なるべく早く日常の学校生活に戻ることを心より願っています。また、まだまだ暑い日が続いていますので、くれぐれも体調管理に気をつけて、家庭学習や部活動などそれぞれの目的に向かって頑張ってください。

さて、今回は主に1学期の人権に関するHR活動について振り返ってみたいと思います。

2年生人権に関するHR活動



〈平成27年愛知県人権啓発ポスター「車イス、4750日目。」〉

今回の人権に関するHR活動では、2年生の皆さんが人権課題の中で高い関心を持っている障がい者差別について学びました。今回扱った「車イス、4750日目。」という平成27年愛知県人権啓発ポスターには、パスタを食べに行ったのに、周りのお客さんに迷惑がかかるという理由で入店を拒否された車イス利用者の「私」と、その対応に怒りを表す「親友」のやりとりが書かれています。「私」「親友」「店の人」のそれぞれの立場で考えた、感じたことをグループで意見交換をしました。また、このことに関連し、「共生社会」と「合理的配慮の提供」について学びました。「共生社会」とは、障がいのある人もない人も互いに、その人らしさを認め合いながら共に生きる社会のことです。「合理的配慮の提供」とは、障がいのある人から、社会的障壁を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたとき、負担が重すぎない範囲で対応することです。

○以下に生徒の感想の一部を紹介します。

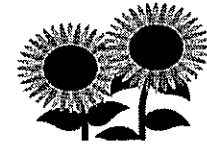
- ・世の中には悪気のない差別もたくさん存在することに気づきました。自分の考えがすべて正しいかはわからないが、周りの人が間違った考えをしていると感じたら、指摘していきたいと思いました。そして、十分に配慮しながら「共生社会」を実現させる努力をしていきたいです。
- ・「合理的配慮の提供」という言葉を初めて知りました。バリアフリーなど建物や環境だけを変えていくだけでなく、私たち一人一人が支える人になっていく必要があると感じました。
- ・自分だけがよければ良いという考えではなく、周りの人も居やすい環境になるように考えなければならないと思いました。
- ・「人が苦しんでいる。人が苦しめている。」という言葉が心に刺さった。今もなお、障がい者差別がな

くならないという現状があるかぎり、誰か一人だけではなく皆が共通意識を持ち、障がいのある人もそうでない人も、お互いが暮らしやすい世の中にするのが大切だと思った。

共生社会は、すべての人がその人らしさを認め合って共に生きる社会であるので、もっと周りをよく見て、その人の立場にたって考えて行動することを一人一人が心がけることによって実現に近づいていくと思う。私もこの先多くの人と関わることがあると思うので、もっと自分だけではなく相手のことも考えて行動していきたいです。

2年生の感想を見ていると、今回のLHRを通して障がい者差別についてより理解を深めることができたという人が多かったように思います。また、「日々の生活からいろいろなところに目を向けて、何かあったときには率先して行動できるようにしたい」と書いている生徒もおり大変感心しました。みなさんが障がい者差別をしてはいけないと思うように、世の中のほとんどの人も同じように考えているでしょう。しかし、差別は今日にも残っている問題です。日頃から人を傷つけないように、そのときの感情だけで行動しないように心がけて生活し、誰もが楽しく生きることができると社会を実現していきましょう。

学校生活アンケート結果より



6月に「いじめ・学校生活に関するアンケート」を行いました。このアンケートの目的は、大社高校の皆さんが安心して学校生活を送ることができるようにすることであり、今後も学期に1回ずつ実施する予定です。

自由記述欄のある問9では、「クラスや部活の雰囲気良くて楽しい」、「困っている時に助けてくれる優しい人がいる」、「生徒同士はもちろん、先生とも気軽に話せる環境だと思う」などといった学校生活に肯定的な意見が多く寄せられました。しかし一方で、「悪ふざけで汚い言葉を使う人がいる。そういう人に苦手意識がある」、「お互いを尊重できている部分もあるが、できていない部分もある」、「休み時間などでTPOをわきまえずに大騒ぎをする人がいる」といった否定的な意見もありました。

人が不快になるような言葉を学校生活で使うべきでないことは誰もが知っているはずですが、冗談がエスカレートした結果、気づかぬうちに場の雰囲気を悪くさせている場面があるようです。1学期の終わりにあたり、改めて自他の言動を見直し、お互いに気持ちよく過ごせるようなコミュニケーションをとることを心がけて欲しいと思います。また、以前から担任の先生を通して注意があったと思いますが、引き続いて新型コロナウイルスに関して偏見を持ったり、差別やいじめをしないように気をつけてもらいたいと思います。

このアンケートには、「コロナによる休校の影響で、友達と接する時間が少なくて寂しかった」というような意見もありました。先日行われた校内球技大会でのみなさんの笑顔を見ていて、お互いにふれあうことの大切さを改めて実感しました。困ったことがあれば、すぐに担任・部活動顧問・教科担当の先生などに相談して下さい。

部活動大会の中止など、あらゆる面でコロナに振り回された1学期でした。2学期は休校をすることなく通常の学校生活を送ることができるよう願っています。

森山祐司(数学科) 今岡雅卓(国語科) 水師敏樹(地歴・公民科)